三川鉱に見る一つの現実

資本の合理化は、アメとムチを巧みに使い分けながら、目に見えないところで進行してゆく。悲劇的な結果が起きてから気づくのでは、もう遅い。
さてここ――三川鉱（前村正一鉱長）に、次のような現実があるが……。

ZD運動の卑劣な手段
〝技能者手当制度〟
その蔭で泣く人もある

会社は六年前、〝技能者手当〟なる制度を発足させた。技能優秀なる人材の流出を防ぐ、という表てだった理由をかかげ、坑内の機機工・仕繰工・電気工の各職種に二百二十名の技能者を選び、AとBの二つにランクづけをし、そしてAの人には三万六百円、Bの人には二万千七百円を年に二回、夏季・冬季手当の支給時に支給するものとして、三池新労組と覚書をとり交わした。

さて六年経った今日、職場に現われた真実は、果たして何を暴露しているであろうか。

いくつかの例をとり出して見よう。

Aさんの場合

いたって小柄なAさんは、高温多湿な坑底の現場に加えてこの夏場を迎え、いよいよ体力に自信を無くしてきた。

岩粉散布のC給作業（請負給）も、当初は岩粉を二十数俵も散布すれば一定の金になっていたもの、十五キロレール（一メーターで十五キログラムのレールをいう）で十メーターを単位として、C給でやってくれんの。

Aさん　おれはでけんばい。

職制　あんたは技能工じゃろう。

Aさん　そげんか技能工は返上する。

繰り込み場でのやりとりが、職場の話題をさらった。

昇坑後、職制はきびしく問いただされると、「あれはじょうだんだった」と返答したことが、また翌る日の職場の話題をさらったのだった。

Bさんの場合

職場の中では、この人も不平不満をもらす一人であるが、彼もまた技能者の資格を与えられた。

職制　今度の日曜日に、ZDの集まりに行ってくれんの。

Bさん　おれはいかんばい。

職制　しゃりむりイ、行ってくれんの。

Bさん　そげんかことなら、ZDから脱退せんなんな。

職制　脱退すんなら、三本線（三池労組のこと）に行かんなんたいな。行ったら、やめてもらわんなら。

Cさんの場合

Cさんは、軽微ではあるがケガをしてしまった。だから、炭じんや岩粉などで汚れのひどい坑内作業は無理。保安部へ行けば、それだけでB給の百%が支払われる今の仕組み。

Cさん　保安部に行くばい。

職制　坑内に、下るだけは下ってくれんの。二十日賃まで行けるだろうが。

Cさん　下るだけといっても、いったん下ったら坑底で仕事しなければならんめエが。

職制　この間のZDの会議でその点話し合ったろうが。

Cさんは、後で述懐している。

「ZDちいやア、きつかなア。これでよくも、負傷減運動なんちいわるるばい」

結果、Cさんはとうとう技能手当受給者からこぼれ落ちてしまった。

もっとも三池労組員のDさんなど、自他ともに認めている一番の先山だが、いうまでもなくこの制度からは、初めからはずされているが。

技能手当支給日に

さて恒例の技能手当支給日ともなると、鉱長室の別室にはちゃんと式次第が書かれていて、副長あいさつがある。そして、一人ひとりに手当を直接手渡しながらのしめくくり。

職制　大加背の天井縫いを、八月二十八日、恒例の熊本県総評機関紙・職場新聞コンクールの審査が行われ、三池労組からは組合機関紙〝みいけ〟が〝活版の部〟で昨年にひきつづき一位に。〝ガリ版の部〟で三川指導部発行の日刊紙〝日刊みかわ〟が三位に宮浦指導部八分会の〝もっこす〟と三川指導部十一分会の〝いのち〟が佳作に、それぞれ入選、依然として三池の新聞活動が注目を集めました。

三池から四紙が入選
熊本県総評の新聞コンクール

今年のコンクール参加紙は活版が六紙、ガリ版刷りが五十五紙、それに機関誌（パンフレット）が三誌で、なんといってもおどろかされたのは日刊職場新聞活動の発展で、全部で十一紙。そのほか旬刊紙がつづき、不定期刊が減ってゆく傾向が顕著でした。

審査は、各炭産の教宣活動の中心にいる人に、熊本日々新聞の新聞づくりの専門家、それに私も加わって行われましたが、なんといっても日刊紙発行の努力が審査員の目をひきつけたことは当然だったでしょう。成績で上位を占めたのが、日刊紙だったのです。

こんどの結果については、熊本県総評からその総括が明らかにされることでしょうがとりあえず審査員の一人だった私の感想を、職場新聞活動のいっそうの発展のために述べておきます。

感じたこと

㈠国労の組織のなかから、これまでにない数の職場新聞が参加してきたことは、国労の力量の増大を反映していて心強く思いました。（十一紙が参加）

㈡全通、全電通の、依然としねばり強い歩みが見られたことも感動を呼びました。

半面、昨年まで大量参加した全林野からの参加が、今年一紙だけにとどまったことはさびしい思いでした。

㈢初めから困難が見通されていた春闘にかかわらず、はげしい気迫がどの新聞にも感じられたことは、やっぱり未来は支配者側でなく、労働者階級こそが切り開くものだということでしょうか。

㈣そんな気はくに比べ、その内容をなすはずの労働者階級自身の生活と意欲が、まったくどの新聞の紙面からもかくされていたことはどうしたことでしょう。

一人ひとりのなかまの生活とたたかいを、もっともっとひき出すべきだと思います。

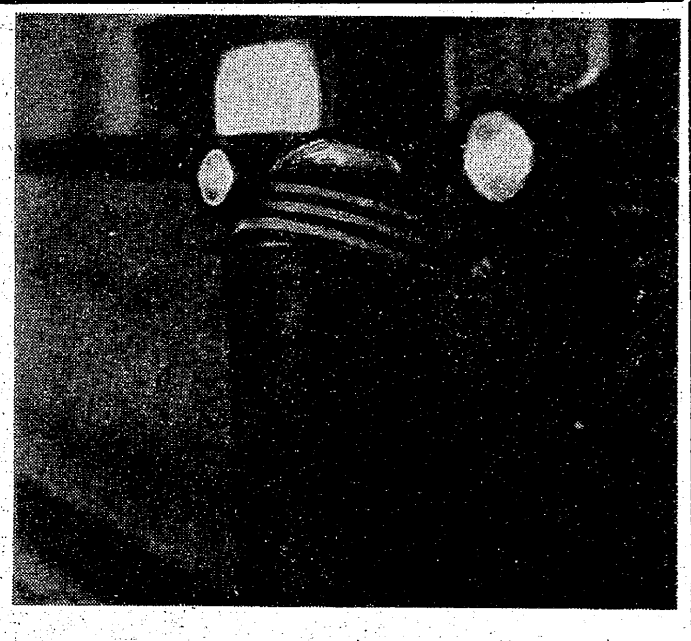
㈤マンガや写真、そのほか文芸作品が少しずつ数を増してきました。なかまは一人ひとりが、独自な知恵、創造力、考えをもっており、それをひき出しながら個性的な豊かな創造力を育ててゆくこと、それが働く者の世のなかを保障する力でもあります。

㈥依然として、荒っぽさが目立ちました。ポスターまがいのものもありました。

もっと心をこめて、丁寧につくることが大切でしょう。

以上が、私の率直な感想でしたが、それにしても三池労組から四紙も入選を果たしたことは、今後の発展の上に大きな確信となるのではないでしょうか。

（K記）



運搬災害絶滅期し交渉
四山

炭労・三池労組はいま運搬災害絶滅のたたかいをすすめているが、これは四山指導部職場七分会（坑外）の対鉱交渉の実際。

同分会は八月十二日、「運搬災害絶滅に関する対策」の問題点をただちに改善することを要求、次の交渉を行なった。

分　会　規程函数を超えている場合がある。あくまで、規程を守るよう。

T係長　重量なども換算し、規程を守ってゆきたい。

分　会　枕木に不良箇所もあり、主要車道は全面コンクリート枕木で整備されること。

T係長　逐次かえてゆきたい。

分　会　柵内の主要道路を舗装し、トラックのスピード制限、荷重制限をきびしく守らせること。

T係長　舗装はむずかしい。

分　会　柵内の直線コースにおける途中駐車禁止、スピード制限。

T係長　道路標識を新しくし、交通ルールは守ってもらう。

（一部分は略しました）

×

上の写真は、すべての動きを見つめるきびしい目。四山鉱で。

三交代制異議あり
話にならぬ今の条件
宮浦指導部電気分会の〝交流〟から

三池炭鉱の職場では、会社の労務支配が強まるにしたがい、矛盾が次第に大きくなってさらけ出されている。

それはも早や、きわめて非人間的な労働条件がその極限に達したことを示しており、一日も早く改善することを迫られていることを示している。

宮浦指導部電気分会の新聞〝交流〟は、交代勤務の定期的改編に際し、職場の率直な声を集めている。会社は、重大な警告ととるべきだ。次は、同紙が伝えた声。

×

新労組員の場合

――だれでも一度は三交代をやるそうだが、それなら半年ごとの交代にすべきだ。常一と三交代の賃金差があまりにもひどい。

――職名変更してでも、三交代にはゆきたくない。

――三化東庄では、三交代の方がよい、と若い者も希望しているが、炭鉱の三交代は余り悪い。

――いまさら三交代では家庭生活が乱されてしまうし、年間に相当額の減収となり、物心両方面の犠牲が余りにも大きい。せめて六カ月交代として、犠牲を少くすべきだ。

――三交代希望がないのは、収入の大幅減が最大の原因。三交代を魅力あるものにすべきだ。

三池労組員の場合

――三交代は体によくないからイヤだ。

――たとえ三交代の労働条件をひき上げても、自分はゆきたくない。

――三交代にやられたばかりに退職した友もいる。自分もそのときは考える。

――三番は廃止すべきだ。坑内の三番方は非人間的だ。

――B給作業で、いまは三交代より収入は少ないが、三交代には絶対にいきたくない。

――三交代にいかねばならないなら、職種転換を申し出る。

――変則的な生活を強制される三交代には、当然他産業のように三交代手当を支給すべきだ。

×

割愛した部分もあるが、会社はこれらの声に耳を傾けるべきだ。

「皆さん、職場の同僚より十分間だけおそくまで働いて下さい」

三池労組員を完全にその制度からはじき出し、三池新労組員同志を分け隔てして競争意識をかき立て、不平不満分子をおさえこみ、そしていやがる作業を無理強いする。

明治以来百年間、三井資本がとってきた労働者支配の方法。押しつけてきている低賃金と、極悪最低な労働条件を、労働者支配のために巧みに逆利用する卑劣さ。

技能者手当制度――こんな悪らつな労働者支配の手段に利用されるものは、一日も早くつぶすことだが、何はおいても、まず炭鉱労働者にふさわしい賃金と労働条件をたたかいとることが先決だ。

そのためには新労組員仲間を信じて、手をにぎることではなかろうか。

×

この項、三川指導部のST記